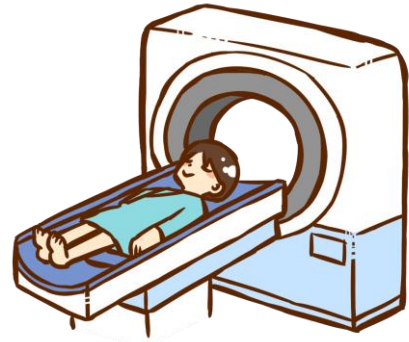


CT 検査を受けられる方へ

— 放射線の影響について —

あなたの体の状態を詳しく調べるために、CT 検査を行うことになりました。CT 検査では放射線を用いて、体内の様子を細かく写真にとることができ、様々な病気やケガの有無、状態を知ることができます。



CT 検査に限らず、医療行為には必ずメリット・デメリットが生じます。CT での主なデメリットは、放射線を浴びるということですが、「放射線のことが心配で検査を受けなかったために、あなたの病気やケガの状態がわからず、症状などがよくなるらない！」ということは避けなければなりません。

*放射線が体に及ぼす影響について

受けた放射線の量が 100mSv (ミリシーベルト) 未満であれば、放射線を検査で浴びた人も検査を受けなかった人も、発がん率や遺伝的な影響の差はないと言われています。

*CT 検査で用いる放射線の量について

以下の表に示す通り、通常の CT 検査で 100mSv を超えることはありません。ご安心ください。

CT	単位 (mSv)
頭部	2.1-2.9
胸部	6.3-11.2
胸部 (健診用)	0.8-0.98
腹部	7.5-15
胸～骨盤全身	10.5-18
心臓 (冠動脈)	1.4-6.3
一般撮影 (正面像)	
胸部	0.19
腹部	0.57
腰椎	0.98
股関節	0.64
膝関節	0.12

しかし、CT 検査が素晴らしいからといって、むやみやたらに検査を行うことはよくありません。CT 検査を依頼する医師は、診療上 CT 検査が必要かどうか (正当化) の判断をし、診療放射線技師はより少ない放射線線量でより質の高い画像を提供する (最適化) 様に検証・改善を行っています。

基本的に健康被害をもたらす被ばく線量ではありませんが、不安なことやわからないことがあれば、スタッフにご相談ください。

病院のホームページ (<https://sendaihp.jp/>) → 部門紹介 → 放射線課 → Q&A) に放射線検査についての Q & A もあります。スマートフォン等にてご覧下さい (右が Q & A の QR コードです)。

